

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和37年8月16日より昭和37年12月15日まで)

新 入 会 (7名)

住 所 変 更 (7名)

現在会員数 396名

本学会所蔵の雑誌及び論文別刷目録

(1961. 12. 1~1962. 11. 30間に受領せしもの)

別 刷

K. IMAHORI and H. SUGA: Characeous Vegetation Study of Lake Kizaki, Japan.

Science Rep. Kanazawa Univ. Vol. 7, No. 1, pp. 85-105, 1960.

須賀瑛文: 愛知県における *Tolypella gracilis* IMAHORI (Charophyta) について. 植物研究雑誌 Vol. 31, No. 9, pp. 262-266, 1956.

今堀宏三・須賀瑛文: 木崎湖におけるシャジクモ群落の分布とその遷移(予報). 植物研究雑誌 Vol. 33, No. 8, pp. 240-244, 1958.

尾形英二: ノリ糸状体の生長に関する研究. 水産講習所研究報告 Vol. 10, No. 3, pp. 423-

500, Pls. I-XII 1961.

岡本一彦： わに川干拓地(利根川沿岸)に生育するボウアオノリ。自然科学と博物館 Vol. 29, No. 7-8, pp. 144-147, 1962.

金沢昭夫： 海藻のビタミン B 群に関する研究——I. ビタミン含有量について。鹿大水産紀要 Vol. 10, pp. 38-69, 1961.

谷口森俊： 日本の海藻群落分布論。その1, 医学と生物学 Vol. 58, No. 5, pp. 169-171, 1961, 同その2, Vol. 59, No. 2, pp. 40-42, 1961.

———： 志摩, 的矢湾における海藻群落と波動との一関係。医学と生物学 Vol. 50, No. 2, pp. 56-61, 1959.

———： 北海道西部, 忍路湾の海藻群落。医学と生物学 Vol. 50, No. 5, pp. 167-169, 1959.

———： 北海道余市湾の海藻群落。医学と生物学 Vol. 51, No. 3, pp. 97-99, 1959.

———： 北海道東部沿岸の海藻群落。医学と生物学 Vol. 54, No. 4, pp. 139-143, 1960.

雑 誌

БОТАНИЧЕСКИЙ ЖУРНАЛ: Tom. 46, No. 9.~Tom. 47, No. 9.

日本菌学会会報: Vol. III. No. 1~No. 6 (草野会長記念号), Vol. IV, No. 1.

評議員会記事

昭和37年10月8日, 日本植物学会第27回大会を機に開催する本学会総会に先立って, 評議員会が同日午後2時半から4時40分まで, 瑞穂短期大学(名古屋市瑞穂区春敲町2丁目)に於いて開催された。

出席者: (A) 評議員—加崎英男(関東), 瀬木紀男(中部), 広瀬弘幸(近畿), 猪野俊平(中国・四国), 田中剛(九州)。(B) 会長—山田幸男。(C) 幹事—中村義輝, 舟橋説往。

欠席者: 時田 郁・川端清策(北海道), 黒木宗尚(東北), 殖田三郎(関東), 八木繁一・生駒義博(推薦)の各評議員(時田・生駒両評議員は夫々瀬木評議員, 山田会長に委任した)。

即ち全評議員11名中5名出席, 更に2名の欠席評議員の委任を加えて下記の事項について意見を纏めた。

1. 幹事側提出の昭和36年度庶務・会計報告の原案を検討, これを承認した。
2. 会長選挙に関する件

山田会長より発言があり「本学会も創立以来10年を経過し, 会員数も400名近くなったので, 会長選挙を総会席上で行なう従来の方法では, 全会員の意志を反映させるという点で, どうかと思うので, 時勢に則した方法によりたいと考えて, 先般来(37.9.6発信)評議員の各氏に, 書面によって, 御意見をいただいたが, これらを要約するに改正した方がよいとの意見が多い様に思われるので, 茲に用意した, 他の諸学会の会長選挙の方法等も参照にして論議願いたい」との主旨の提案がなされた。

そこで評議員会では会長選挙の方法を改めるか否かの、結論を出すこととし、活潑な論議の後、改正することに意見が纏まり、このあと引続き開かれる総会に提出する原案を次の如く作製した。

『会長は国内在住の全会員の投票により、会員の互選で定める(その際評議員会は参考のため若干名の候補者を推薦することが出来る)。幹事は会長が会員中よりこれを指名依嘱する。』

これは本会々則附則第1条の改正の件として総会の議題とすることとした。

3. 本会創立10周年記念事業に関する件

標記の記念事業について会長より各評議員に諮問(37.9.15 発信)して、予め文書によって種々の意見をいただいていたが、これらについて意見の交換、補足が行なわれた。

これらの意見を摘記すると次の通りである。

(1) 日本藻類学会賞、副賞〇万円。(2) 10周年記念論文集刊行。(3) 記念特別講演会開催。(4) 国内藻類文献集刊行。(5) 国際藻類学会を日本に招致。(6) 日本藻類学会講演発表会。(7) 国内外の海藻研究所、臨海実験所の紹介。(8) 会長・幹事に感謝状。(9) 雑誌「藻類」I~X巻までのインデックス作製。(10) 藻類増殖・養殖の現況紹介。(11) 小冊子名簿(記載事項: 学歴, 連絡先, 専門分野及関心ある事項) しかし予算面等の関係上、最も実現性のあるものでしかも会員全体が恩恵に浴せる項目に絞って実行したらどうかということになり、総会の議題とすることにした。

第 10 回 総 会 記 事

本会第10回総会は、評議員会に引きつづき午後6時30分より9時20分まで名古屋大学(東山)構内豊田講堂、階上第1会議室に於いて開催された。出席会員は38名であった。これに先立ち同講堂ロビーにて5時30分より約1時間夕食をとり乍ら自己紹介等が行なわれた。

次に会の順序に従って、これを報告する。

1. 開会の辞: 中村幹事
2. 会長挨拶: 山田幸男氏
3. 議長選出: 慣例により地元会員の瀬木紀男評議員が選出された。
4. 議 事

A. 庶務・会計報告:

さきに本誌第10巻第1号末頁に印刷した昭和36年度報告(自昭和36.4.1至昭和37.3.31)に基づいて、舟橋幹事から説明があり承認を得た。又これにひきつづき10月8日現在で会員数は391名に達し、会費の納入状況は昭和35,36年度は凡そ9割納入済み、37年度分は目下の処6割5分納入済みであること等の中間及び補足的報告があった。

福島博会員より会計の決算報告はあるが、予算審議をも行なった方がよいのではない

かとの発言があり、出席者大多数これに賛成し、昭和 38 年度より実施することに決定した。また評議員選挙の際の得票数を公表すべきではないかとの論議があったが、目下の処公表の必要なしということになった。

B. 本会々則附則一部変更の件：

中村幹事より本件の経過及び趣旨の説明があり、この総会の前に開催した評議員会で纏めた原案を提議した。

a) 附則第 1 条の改正 (会長選出)

「会長は国内在住の全会員の投票により互選する(その際評議員会は参考のため若干名の候補者を推薦することができる)。

幹事は会長が会員中よりこれを指名依嘱する。」

この原案に基づいて慎重に討議の結果、全出席会員挙手を以て改正原案に賛成これを承認した。そして更に「事務所は会長のところにおくことを原則とする」これを再確認し、これを記録しておくことを申合わせた。

b) 会長選出の時期

附則第 1 条の改正に伴い、会長選出の時期について論議が行なわれたが、任期の 1 カ月前に改選すること、更に 1 カ月前に、会長選出のための評議員会を開催することを決定した。

c) 役員の任期と会計年度

会長、幹事、評議員等の全役員の任期と会計年度とを一致させてはどうかとの意見があり、これを一致させることに大多数賛成し、任期と会計年度は一致させることに決定した。

第 1 回の総会席上行なわれた会長選出は昭和 27 年 10 月 11 日で、山田会長が選出されて以来、総会から総会までが従来慣例的に役員の任期であったが、爾今会計年度と役員の任期とを一致させるために、昭和 37 年会計年度末の昭和 38 年 3 月 31 日付で、会長、評議員、幹事等の全役員の任期を満了とし、昭和 38 年 4 月 1 日より新役員により会の運営に当ることを決定した。

そこで具体的には、昭和 38 年 2 月末日までに会長選挙を行なう(2月中)。同 1 月末日までに会長選挙に関し、評議員に諮問する(1月中)。

役員改選の執行は幹事会に一任すること、また現在の会長および本総会に出席全評議員は任期の残余期間はこれを放棄するとの申合わせがあった。

d) 附則第 4 条の改正 (役員の任期)

そこで以上の決定申合わせ事項に基づき、附則第 4 条を次の如く改正することを、全員挙手を以て賛意を示し、決定した。

「会長および地区選出の評議員に欠員を生じた場合は、前任者の残余期間次点者を以て充当する。」

C. 10 周年記念事業:

評議員会で取上げられた案件の他に、会員中より「タイプスペシメンの存在場所のリストを作製して欲しい」等の意見もあったが、その他にも何かアイデアがあれば幹事まで一報願いたい。

結局この件については幹事会に一任するという事になった。

D. そ の 他:

a) 明年度の本会総会は、日本植物学会が岡山市で開催されるのを機に岡山大学で引受けるとの挨拶および抱負が猪野評議員(中国・四国)より述べられた。

b) 生物学研究長期計画(第二次案)のプリントが全員に配布された(介水島正美氏都立大)。10月9日の分類学会にて、藻類学会の方々の意見を出して欲しいとのことであった。

—— 以上を以って総会を打切る(午後8時30分) ——

E. スライド上映(15分) 「フランスの話」 田中 剛氏(鹿大)

映 画(20分)「志摩半島」(瀬木紀男氏の御尽力)

新くて全員地元評議員瀬木紀男氏の御尽力によりこの会合を開催できたことに感謝の拍手を送り解散した。

尚、瀬木氏と共に御協力下されました地元の神谷平氏(愛知大学)、および谷口森俊氏、喜田和四郎氏等の三重県立大学の瀬木研究室の方々に厚く御礼を申し上げます。

(舟橋幹事記)

出 席 者 (ABC順)

秋 山 優	江 越 千 代	榎 本 幸 人	福 島 博	舟 橋 説 往
藤 林 園 子	広 瀬 弘 幸	猪 野 俊 平	入 来 義 彦	神 谷 平
加 崎 英 男	喜 田 和 四 郎	北 見 秀 夫	小 林 艶 子	熊 野 茂
丸 山 晃	御 船 政 明	中 村 義 輝	中 沢 信 午	西 林 長 朗
西 沢 一 義	大 房 剛	岡 田 喜 一	奥 野 春 雄	斎 藤 雄 之 助
沢 田 武 男	瀬 木 紀 男	瀬 戸 良 三	須 賀 瑛 文	田 中 剛
谷 口 森 俊	建 武	坪 由 宏	津 村 孝 平	梅 崎 勇
山 田 幸 男	他 に	大 滝 保	土 屋 行 信	(敬 称 略)

役 員 移 動

庶務幹事田沢伸雄氏移動に伴い、昭和37年10月31日付を以って退任。



投 稿 規 定

会員諸君から大体次の事柄を御含みの上投稿を期待します。

1. 藻類に関する小論文(和文), 綜説, 論文抄録, 雑録等。
2. 原稿掲載の取捨, 掲載の順序, 体裁及び校正は役員会に一任のこと。
3. 別刷の費用は著者負担とする。但し小論文, 綜説, 総合抄録に限りその50部分の費用は会にて負担する。
4. 小論文, 綜説, 総合抄録は400字詰原稿用紙12枚位迄, 其他は同上6枚位迄を限度とし図版等のスペースは此の内に含まれる。

尙小論文, 綜説に限り, 欧文題目及び本文半頁以内の欧文摘要を付すること, 欧文は成る可く, 英, 独語を用うること。

5. 原稿は平仮名混り, 横書としなるべく400字詰原稿用紙を用うること。

尙学会に関する通信は, 札幌市北大理学部植物学教室本会庶務, 会計又は編集幹事宛とし幹事の個人名は一切使用せぬよう特に注意のこと。

昭 和 37 年 度 役 員

会 長	山 田 幸 男
編 集 幹 事	中 村 義 輝
〃	須 藤 俊 造
編 集 ・ 会 計 幹 事	舟 橋 説 往
庶 務 幹 事	山 田 家 正
幹 事	秋 岡 英 承

昭和37年12月20日印刷

昭和37年12月25日発行

編集兼発行者 中 村 義 輝

室蘭市新富町北海道大学理学部海藻研究所

印刷者 山 中 キ ヨ

札幌市北三条東七丁目三四二番地

発行所 日 本 藻 類 学 会

札幌市北海道大学理学部植物学教室内
振替小樽 13308

禁 転 載

不 許 複 製

